

授業紹介

経過別看護援助実習 I・II

看護学科 教授 おりいゆきこ 織井優貴子
看護学科 講師 ふじた 藤田あけみ

本科目は患者様との直接の関わりを通して、様々な対応を求められる実践的科目です。特に、急性期・回復期実習では患者様との関係を構築しながら、手術を受ける患者様の状態を把握し、必要な看護を提供することも重要になります。そのためには、手術後の経過を予測し、異常を早期に発見することが大切です。実習場では、大学で学んだ知識と技術を生かして、そのような患者様に確実に対応できるように経験することが必要になります。本学では、関東以北の看護系大学ではまだ導入が少ない、患者モデル人形「ナーシングアン®」を使用し、実践に近い経験を学内で繰り返し積んでから実習に臨ませています。この通称「アンちゃん」は、咳・嘔吐・息切れ・叫び・はいいいえの返答が可能であるため、患者様の状態の理解がしやすいと学生に好評です。この科目では、手術を受ける患者様のつらさ・苦しさを理解し、エビデンスに基づき、論理的思考を育て、どのような看護が必要なのかを学ぶ事ができるように工夫しています。



研究成果

特報！青森県に自生する食材から抗がん作用物質発見！

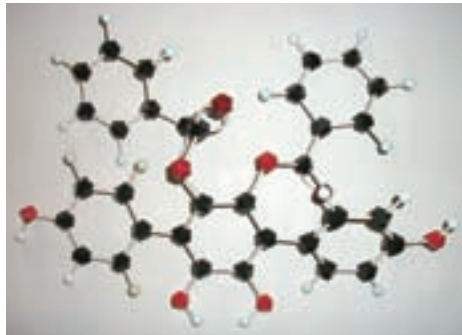
のりくらしお
栄養学科 助教 乗鞍敏夫

ボタンイボダケから始まった研究のドラマ

「青森県産食材に抗がん作用を有する成分はないものだろうか」
修士論文のテーマとして大学院生の成田崇信（たかのぶ）さんと一緒に取り組んだこの研究は、後に地元新聞でも大きく取上げられる大きな成果を生み出しました。「本当に結果は得られるのか」という不安から始まった研究でした。研究のため青森県内の各地から集めた素材は40種類を超え、日々一品一品成分について探索を続けておりました。

実験が深夜におよぶこともあり、疲労の蓄積と不安は日に日に増していきます。ある日、成田さんがたまたま山から採ってきた「ボタンイボダケ」というキノコ。どこにでも自生しているこのキノコの成分について、いつものように研究を進めると、アルコール抽出成分から抗がん作用のある「テレファチンO」「バイアリニンA」という2つの物質を発見しました。

乗鞍助教は「叫びたくなるようなしびれる感動だった」「これからも県産材を使った県民のためになるような研究を続けていき、商品化を含め地域の役に立てれば」と語ってくれました。



大学院に

NEWS

社会福祉学修士コースが新設されます

近年「少子・高齢化」の進展や、障害者自立支援法、ホームレス自立支援法、発達障害者支援法、介護保険法改正など、従来の制度から大きく変化してきたことから、「多様なニーズ」「高度な専門性を高める」人材の必要性が求められています。今回「社会福祉学修士」の学位取得が可能になることにより、地域に貢献する人材育成機関としてさらに発展することが期待できることとなります。

● コース設置年月日 平成23年 4月1日 ● 社会福祉学科 教授 わたなべよういち 渡邊洋一